



Kanako Okuyama  
2005年入社

## チーフアーキテクト

「ITの力で成し遂げる」ことに魅力を感じた。

幼い頃からコンピューターが身近にある環境で育ちました。運動や工作が苦手だった私にとって、ITの力で動かないものを動かしたり、何かを創り上げることがとても楽しかったんです。そんな世界への憧れから、大学でも理工学部情報工学科を専攻し、この業界に進みました。もともとはサーバー構築のスペシャリストだったのですが、お客様と直接会話し、ITインフラのグランドデザインや解決策を提案することに魅力を感じ、アーキテクトにキャリアをシフト。現在はマネージャーとして、チームをリードしています。

「広く・深い」知識で、信頼関係を築いていく。

チーフアーキテクトという職種は、簡単にいうと「お客様の業界やビジョン

を理解した上で、目指すべきインフラの将来像と一緒に描き、お客様のビジネス変革の支援をする仕事」です。担当する業界への深い知識はもちろん、ITトレンドやキンドリルとして提供できる新しい技術への理解も必須なので、大変だと思ふこともしばしば。でも、数年単位という中長期スパンでお客様との信頼関係を築きながら仕事をしていくことにやりがいを感じますし、お客様のおかげで、自分自身が成長できているという実感を得ています。

誰よりも先に困りごとを相談していただきたい。

この仕事の魅力の一つは、キンドリルの技術担当リーダーとして、お客様の相談相手になれることです。度重なるディスカッションを通じて深い関係性を築ければ、お客様が本当に考えていることが理解できてくる。お客様にとって真に価値ある提案が何なのかがわかってくる。その積み重ねで、お客様の将来像を

共創するパートナーになっていけると思っています。だからこそ、「誰に相談すればいいかわからなかった」というITの悩みを一番に私に相談してくれると、とてもうれしくなります。

若手も含め、とにかくフラットな環境。

キンドリルでは若手・ベテランという垣根を越えて、みんなの意見が尊重され、手を挙げれば若手でも重要な仕事を任せてもらえます。困りごとをチャットすれば、部門に関係なく誰かが助けてくれたり、別部門の先輩がメンターとしてサポートしてくれたり。私は現在マネージャーという役割を担っていますが、上の立場から管理するのではなく、下から皆の働きやすさを支える存在になりたいなと思っています。

子どもとの時間が、仕事のメリハリに。

キンドリルには、世間で働き方改革



Kanako Okuyama  
2005年入社

が行われる前から、リモートワークや多様な社員一人ひとりの働きやすさに取り組んできた背景があります。そのためあらゆるライフスタイルで自分のパフォーマンスを最大限に発揮できます。私の場合、4歳の双子がいるので、子どもとの時間は一旦仕事をストップ。でもそれがいいリフレッシュになっていて、仕事タイムの集中力アップにもつながっています。

## 新しい会社だからこそ、新しい文化を作っていける。

キンドリルには、皆のチャレンジを後押ししてくれる環境があります。技術者としてスキルアップできることはもちろんのこと、何より新しい会社なので、皆でキンドリルという世界最大のスタートアップ企業の文化を作っていく立役者になることができます。また、一人ひとりが自分らしく働けることを尊重しているので、(私自身もそうですが)決してそこまでアグレッシブな性格ではないという方でも、

柔軟性があるって、前向きに「まずはやってみよう」と新しいことに取り組めるのであれば大歓迎です。ぜひ皆で、新しい波を作っていけたらうれしいです。

## ある一日のスケジュール

- 7:00 起床。朝食・子どもを送る・家の掃除などを済ませます。
- 9:00 メールチェック。チャットで部員とコミュニケーションをとるようにしています。
- 11:00 資料作成。Udemyで自分のスキルアップのための勉強をすることも。
- 12:00 昼食・休憩。
- 13:00 提案チームでソリューションのディスカッションなど。
- 15:00 部員とのコミュニケーション。定期的にチームメンバーと一対一で話す時間をとっています。
- 16:00 お客様との定例会議・資料作成。
- 18:00 子供の迎え・夕食を済ませたら、子どもと遊ぶ時間に。
- 21:00 メール・チャットをチェック。子どもを寝かしつけたあとは自分の趣味の時間です。